

民間検査機関だより

No. 30

平成13年12月25日発行

新潟県民間環境
検査機関協議会
(略称「民環協」)



ニホンザル (Macaca fuscata)

新潟県内の山岳部では広い地域で生息が確認されています。群れで行動し、時には人里まで下りてきて農作物を荒らすなどの被害が県内でもかなりの地域で見られます。

写真・文

大谷道生

(財)新潟県環境衛生研究所環境調査センター

撮影時期・場所

平成9年2月 新潟県南蒲原郡下田村大谷

平成13年度 新潟県民間環境検査機関協議会 (民環協) 事業報告

- 通常総会 平成13年6月12日
平成12年度事業報告
平成12年度収支決算報告
平成13年度事業計画の審議
平成13年度収支予算の審議
役員を選任
- 理事会 平成13年6月12日
平成13年9月26日
- 新潟県理化学技術職員協議会主催の講演会への参加
- 甲信越環境測定機関協議会への参加
- 常任理事会 平成13年8月9日
平成13年11月21日
- エコビジネス展への参加

会員が行っている主な業務

- 健康で安心できる生活のために
 - ・飲料水、簡易専用水道の検査
 - ・食品の成分分析や添加物検査
 - ・病原性細菌検査などの衛生検査
- 快適な生活環境を守るために
 - ・環境水、工場排水などの水質分析
 - ・浄化槽の法定検査、放流水検査
 - ・焼却場、ボイラー等の排ガス測定
 - ・土壌中の有害金属等の分析
 - ・作業環境測定
 - ・焼却場、工場などの悪臭物質の測定
 - ・工場や生活環境中の騒音、振動測定
- 新たな環境問題に即応するために
 - ・排ガスや環境中のダイオキシン測定
 - ・環境水等の環境ホルモンの測定
 - ・遺伝子組み換え食品の分析
- 自然環境を守るために
 - ・大規模開発に伴う環境アセスメント
 - ・各種環境調査、解析
 - 水質、底質、土壌等の調査
 - 動物、植物等の生態系調査
 - 騒音、振動、交通量調査
 - 環境大気等の調査
 - 日照、景観等の調査
 - 酸性雨・雪等の調査
 - 廃棄物関連の調査
- 環境保全型社会づくりの支援
 - ・ISO14000s認証取得の支援とコンサルティング
 - ・環境保全、復元、創造のためのコンサルティング

精度管理部会活動報告

精度管理部会長 小林 広志

精度管理部会は、我々検査機関が重要視しなければならない分析精度の向上を目指す部会です。今年度の部会活動は平成13年5月11日の定例全体会議において審議後開始しました。

以下に活動の内容を紹介します。

1. 内部精度管理実践活動（平成13年8月～12月）

各検査機関で日常行っている分析項目の精度を確保するため、 $\bar{X}-R$ 管理図法による所内精度管理を実施することとしています。

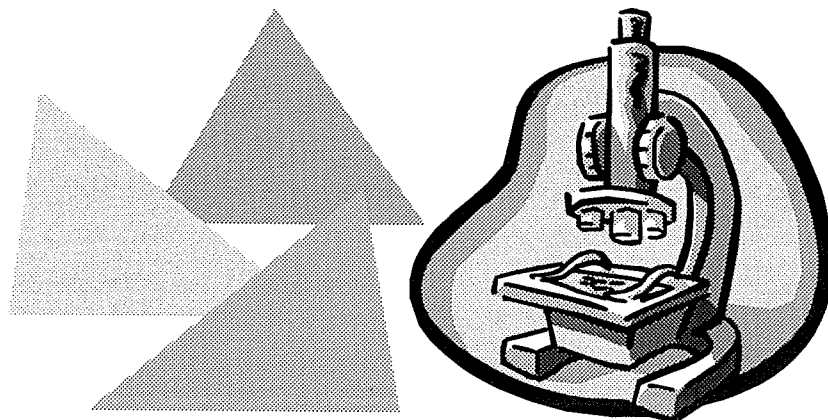
2. 外部精度管理の実施（平成13年10月試料配布）

全会員が参加できるように水質試料を調製して、全クロム、六価クロムの分析を実施しています。尚、試料調製後六価クロムが三価クロムに変化したため報告は全クロムのみとしました。今後、試料調製も充分検討を行った上で行いたいと思います。

その他に、平成12年度実施した肥料の標準試料を用いて行った、重金属分析結果の変動係数が大きく良い結果が得られなかったため、今回再度試料を購入して行うこととしました。項目については亜鉛、カドミウム、鉛、総水銀として分析を実施しています。

3. 精度管理の結果検討会

内部精度管理、外部精度管理の結果を取りまとめ、解析後計量証明部会と合同で検討会を平成14年2月頃開催する予定です。



計量証明部会活動報告

計量証明部会長 横 田 清 士

計量証明部会は、民環協の組織改革が行われた平成7年度に、環境証明事業に係る分析・測定技術の向上を目的に生まれた部会です。今年度の部会事業は、以下の通りの計画で現在活動中です。

1. 第1回技術研修会（計量証明書の記載事項について）

平成13年9月28日～29日に上越観光物産センター及び国民年金健康センター上越で9機関22名の参加により、日頃各検査機関が発行している計量証明書を使い、その記載方法等について報告していただきました。内容として新計量法でも議論されている、外部機関に工程の一部又はすべてを分析委託したときの扱い、分析機器等を借用したときの扱いなど現在の状況を各機関から説明していただきました。今回の研修が今後の各機関の参考になれば幸いです。

2. 第2回技術研修会（精度管理部会、計量証明部会合同研修会）

精度管理部会と合同で、今年度予定しているクロスチェック結果の評価ならびに問題点の検討を平成14年2月頃予定しています。

3. 先進県（検査機関）視察研修会

平成13年11月9日～10日に 国土環境(株)環境創造研究所 環境リスク研究センター へ視察研修を行いました。

内容は、同社の業務内容ならびに同研究所の特徴を具体的な研究事例をまじえ説明を受けその後、精度管理に関してのご講演をいただきました。最後に分析ラボの見学を行い17:30頃まで親切に対応していただきました。なお今回は、ダイオキシン及び環境ホルモン関連の内容が主体の視察でしたが終了後の懇親会には、苮木副所長、松村センター長よりご出席いただき計量証明事業全般にわたり懇談ができ、大変有意義な研修でした。

4. 日環協関東支部環境セミナー

平成13年10月4日～5日に千葉県鴨川市において、第13回環境セミナー in Kamogawa が開催されました。第1日目の特別講演では、経済産業省計量行政室の徳松伸二課長補佐より「計量制度の改正について」、適合性評価センター試験所認定課の富川浩明主任より「特定計量証明事業所の認定について」ご講演をいただきました。第2日目には県内の検査機関からも2題の発表があり演題は(株)新潟県環境衛生中央研究所の矢島和幸さんが「n-ヘキサン抽出物質（同植物油と鉱物油の分離定量）について」、(株)上越環境科学センターの白砂克史さんが「PCB分析における固相抽出法の適用について」でした。

5. 日環協関東支部役員会

以下の役員会に部会長機関として(株)新潟県環境精製研究所又は(株)上越環境科学センターが出席しました。

(1) 平成13年5月25日（東京） 関東支部役員会へ (株)新潟県環境衛生研究所より出席

(2) 平成13年8月22日～23日（長野） 環境セミナー in Kamogawa の打ち合わせ会議へ
(株)上越環境科学センターより出席

(3) 平成14年2月21日～22日予定（神奈川） 関東支部役員会へ (株)上越環境科学センターより出席

水道・食品部会活動報告

水道・食品部会長 松浦光芳

水道・食品部会は、水道、食品及び貯水槽の水質に係る検査技術の研究、研修等を行う部会で、三つの委員会を設け、各委員会ごとに検査技術に関する情報交換や広報活動を行っています。本年度の部会事業活動は、平成13年5月11日に開催された部会全体会議において審議され、その事業計画に沿って、活動を行っています。以下に、本年度の事業活動の内容について報告致します。

1. 会議

- 平成13年6月7日 全国給水衛生検査協会関東甲信越支部理事会
「常盤ホテル」山梨県甲府湯村 部会長出席
- 簡易専用水道指定検査機関打ち合わせ会議（予定）
県、新潟市の担当者からも出席して頂き、開催する予定。
開催時期は平成14年2月～3月の予定。

2. 研修会

(1) 水道委員会

- 水道法20条指定検査機関研修会
平成13年11月22日 新潟厚生年金会館において開催。
県生活衛生課から講師（水道担当）を派遣して頂き「水道法の改正内容等について」講演会を行った。
また、行政と20条指定検査機関との情報交換も併せて行った。

(2) 食品委員会

- 新潟県食品衛生協会主催の「食品の衛生検査推奨機関研修会」
平成13年11月29日新潟ワシントンホテルにおいて開催。
当部会の検査機関も「食協の推奨機関」として参加した。
研修内容は、「最近の食品衛生の動向」というテーマで、県生活衛生課食品担当の講演と「実践異物混入対策」のビデオ映写が行われた。
- 技術研修会（予定）
テーマ「食品検査における精度管理」
講師 柏崎保健所衛生環境課 郷 課長
平成14年1月 長岡市内において開催予定。

浄化槽部会活動報告

浄化槽部会長 外山 憲 幸

会 議

開 催 日	開催場所	会 議 名	概 要
平成13年 4月17・18日	山梨県山梨市 富士屋ホテル	浄化槽指定検査機関関東甲信越 ブロック協議会理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成12年度事業報告収支決算報告 平成13年度事業計画(案)収支予算(案) 役員改選、情報交換等
5月11日	メルパルク新潟	民環協 合同部会	<ul style="list-style-type: none"> 平成12年度事業報告収支決算報告 役員改選について 平成13年度事業計画(案)収支予算(案) について意見集約
6月15日	メルパルク新潟	浄検協 通常総会	<ul style="list-style-type: none"> 平成12年度事業報告収支決算報告 役員改選 平成13年度事業計画(案)収支予算(案)
6月29日	ハイブ長岡	浄検協 全体会議	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽法定検査料金改訂 (廃棄物対策課一般廃棄物係案)の検討
11月 5日	(株)新潟県環境衛 生中央研究所	業務担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> 料金改訂(県報告示)にともなう浄検協 浄検協としての啓蒙PR文書の作成打 合せ
11月15・16日	山梨県石和町 ホテル古柏園	浄化槽指定検査機関関東甲信越 ブロック協議会理事会	<ul style="list-style-type: none"> 表彰規定の運用見直しについて 広報活動について、情報交換
12月 6日	メルパルク新潟	浄検協 全体会議	<ul style="list-style-type: none"> 法定検査料金改訂にともなう今後の検討 浄化槽整備協会と検査機関の連絡協議会 (仮称)の設立について インターネットによる情報公開について

研 修 会

開 催 日	開催場所	会 議 名	概 要
平成13年 5月11日	新潟テルサ	小容量型小型合併浄化槽研修会	
11月15日	山梨県石和町 ホテル古柏園	浄化槽指定検査機関関東甲信越 ブロック協議会研修会	<ul style="list-style-type: none"> 膜分離による生活排水処理、担体流動と 生物ろ過を組合わせた処理法の留意点

そ の 他

平成13年 5月18日	新潟県環境整備事業協同組合総会 浄検協会長出席
5月23日	(株)新潟県浄化槽整備協会総会 浄検協会長出席
7月12日	法定検査料金改訂(県案)について浄検協としての回答及び要望について県と打ち合わせ (浄検協正副会長、事務局、浄化槽部会長)

社団法人 県央研究所

〒955-0805 新潟県三条市吉田1411-甲
 TEL 0256-34-7072 FAX 0256-35-6483 E-mail kenohlab@soho-net.ne.jp

複雑化の進む現代の社会環境。食と生活環境は今、大きな転換期に差しかかっています。

当研究所は多様化する諸情勢を受け、昭和50年に高野食品相談所を開設。昭和58年に業界と生活者の間に立った中立公正な公益法人となり、明るい豊かな生活環境を目指して、食と生活環境を中心とした問題の試験・検査・研究等の業務を展開しています。

当研究所の基本姿勢は、ただ単に数値的な解析をするのではなく、その目的を果たすためにはどうしたらよいかまで伝えることにあります。お客さまが本当に望んでいるものは、数字の大小ではなく確実な問題解決方法だと、当研究所は考えます。そして問題を解決するためには、対象をより深く見つめられる確かな眼と最先端の技術が必要です。当研究所はこのような最先端の技術を通じ、お客さまと一緒にさまざまな問題の解決に取り組んでいきたいと考えています。

業務内容

●環境検査

- ・飲料水検査
- ・排水検査
- ・土壌検査
- ・残留農薬検査
- ・ばい煙検査
- ・水道法20条水質検査
- ・産業廃棄物検査
- ・プール水質検査
- ・河川水水質検査
- ・残留農薬検査
- ・レジオネラ属菌検査

●食品検査

- ・細菌検査
- ・理化学検査
- ・物性検査
- ・有害物質検査
- ・異物同定
- （異物混入クレーム・異常品の検査同定）
- ・容器包装検査（輸入）
- ・食品添加物検査
- ・残留農薬検査
- ・米の成分検査

●臨床検査

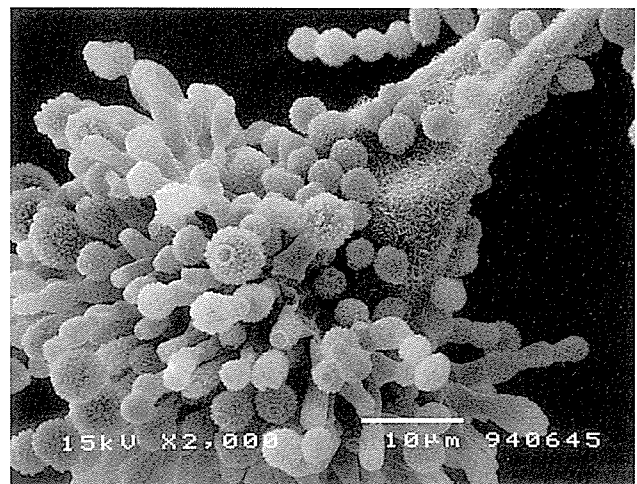
- ・微生物学検査
- ・尿検査
- ・寄生虫検査

●調査研究

- ・新製品開発の試験検査
- ・官能試験
- ・抗菌効果試験
- ・衛生指導（5S・Q-HACCPの確立）



県央研究所建物全景



走査型電子顕微鏡撮影による麹カビ

コープエンジニアリング(株)新潟分析センター

〒950-0881 新潟県新潟市榎町3番地 TEL 025-273-8176 FAX 025-273-5158

コープエンジニアリング(株)は、八戸・宮古・秋田・茨城・新潟の5事業所があり、各工場、研究所の設備の設計、建設、施工管理、保守保全を担当し、又これまでに培った「技術」と「豊富な経験」に加え「新しい技術」を積極的に取り入れて、化学工場一般のプラントエンジニアリングに進出すると共に、“肥料関連設備”“物流設備”“農畜産物加工設備”“飼料生産設備”等の分野へ業務を拡張してまいりました。

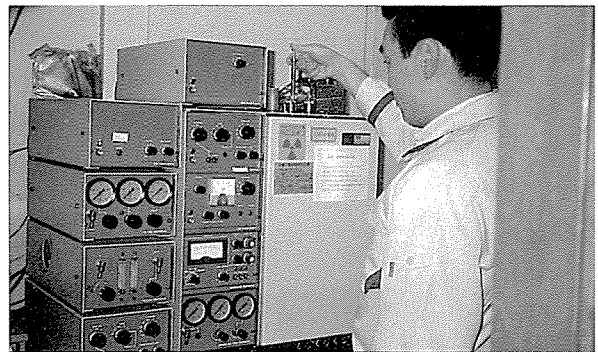
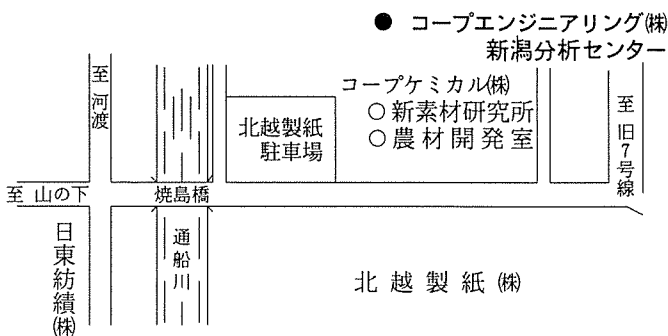
当分析センターは(株)サン化学の検査課の一部門を昭和51年「環境計量証明事業」として登録した後、(株)サン化学が合併に伴ってコープケミカル(株)に名称変更をした時点で、関連会社のコープエンジニアリング(株)へ移行したものです。

営業分野は、大気関係を主に水質・悪臭・土壌・肥料等の分析であります。エンジニアリング部門の公害防止工事や廃油処理に関する分析、さらに他社調査研究部門からの依頼分析が増えてきております。又ダイオキシン類の分析については、同業他社と業務提携を行い成果をあげております。

当分析センターの所在地は、新潟市榎町3番地ですが、狸が出没したり、雉が孵化して子供の雉が走り回っているのが見受けられます。

日本で絶滅が危ぶまれている「イヌワシ」の孵化しなかった卵や雛の死体から、PCB、DDT、その他殺菌剤、殺虫剤の環境ホルモンが、検出されたといわれています。これらは既に製造や使用が禁止されていますが、難分解性から植物連鎖で長時間かけて蓄積され次世代に移行していることを裏付けるものでしょう。こういった生態系の変化が、この狸や雉がどこまで影響されているかわかりませんが、長く正常な環境状態を維持してもらいたいものと願っております。

◎ 事業所所在地



技術者構成 (分析センター関係)

環境計量士	2名
第一種作業環境測定士	2名
大気関係第一種公害防止管理者	3名
水質関係第一種公害防止管理者	3名
騒音関係公害防止管理者	1名
振動関係公害防止管理者	1名
放射線取扱主任者	2名



遺愛の品

新潟県保健衛生センター 小田辺 満 雄

広辞苑によれば「遺愛」とは、「故人が生前大切にしていたもの、また後世までのいつくしみ」と解説されている。

私が遺愛の品というものについて、多少とも心を動かされた、二つの事柄について書いてみたいと思う。

ある雑誌の、多分婦人雑誌だったと思うが、その中ほどに、「小林秀雄遺愛の品」と題した写真が目止まって、その写真が私には忘れられないものとなった。写真の解説には、備前焼とあった。細身の銚子一本と、小さな盃が一ヶ、仄かな光の中に静かにたたずんでいるようだった。

人名辞典を持たない私には、安直で便利な「この一冊で日本の作家がわかる。」という文庫本がある。それによれば、小林秀雄という人の簡単な経歴や作品がわかる。

雑誌「文学界」の創刊と編集長、詩人中原中也の恋人との同棲や別の女性との結婚などが書かれている。中々の激情家ではなかったろうかと想像してみるが、私の想像にしかすぎない。酒が好きであったかどうか私にはわからない。

しかし、職業柄、多くの酒席に列していたことは、まず、間違いあるまい。

しかしだ。あの写真の銚子と盃の枯れがれとした、さびた、静かな色調から、一人、音もなく、夜の深みの中で、独酌をしていたであろう、小林秀雄という著名な人の姿が、私の心に浮かんでくるのである。

華やかな酒席が多かったはずの生涯の中で、いつも、独酌の時間を放さなかったであろう事を物語る、備前の銚子と盃の写真に、私は、人生の深さと、それ故の楽しさを教えられたようで、あの遺愛の写真は、いつまでも酒好きな私の脳裡を離れることがないのである。

二つ目の事とは、私が家族で、日帰りの小さな旅をした帰り道、分水町の良寛記念館に立ち寄った時の事である。

陳列室の入り口の一番はじめに置かれていたのが「良寛遺愛の硯」であった。硯といえば、名品があまたあるそうだが、私は、その方面でも全くの門外漢である。なのに、なぜ良寛の遺愛の硯が、いつまでも心に残るのだろうか。

それは、硯というより、岩石の破片のトゲトゲした蒼黒い、そして薄い板状の、やや菱形をした石に彫られたものであった。重量感など全くないすくて、寒々として、神経質なほど尖った岩石で出来ていた。

子供達とまりをついて、春の永き日を暮らしたとか、花は無心に蝶を呼び、蝶は無心に花をたずねると歌った、慈眼と温情に溢れた今までの良寛の遺愛の品とは、どうしても思われず、あまりのイメージの落差に、しばし茫然としたことを覚えている。

私は、出雲崎の町を見た。そして、国上山の五合庵も見学した。思えば世俗を捨ててなおその上、自分の生家の橘屋の没落を眼前にして世を去った良寛は、涙の人であると同時に、遺愛の硯のように鋭い、理智と意志の人ではなかったかと思わされるのである。

これが、自分の遺愛の品と、故人が生前に意識していたかどうか。それは、故人に聞いてみなくてはわからぬことだろう。故人は案外、これは遺愛の品だなどと、考えたわけではないだろう。一生懸命に生き、無心な生活をして、その生活の中からころがり出たものを、人は遺愛の品というのではないか。

私が酒を飲む理由

財団法人 新潟県環境衛生研究所 分析二課 山田 典 寛

薄暗いカウンターの中でバーテンダーがシェーカーを振る。高々と掲げられたシェーカーは無機質で冷たい金属光沢を放ち、その中から輝く宝石のような飲み物がうまれる…

一年ほど前、近所にショットバーがオープンしました。マスターとは昔からの知り合いで、家から近いこともあり、いつの頃からか一人でぶらりと立ち寄るようになりました。そんなバーのカウンターに様々な出

会いと美味しい酒があり、そこでの時間は心の休まるひとときになっています。

バーでカクテルを作る人を『バーテンダー』と呼ぶのはご存じかと思いますが、その言葉の由来を知っていますか？『Bartender (バーテンダー)』とは、『Bar (酒場)』と『Tender (優しい相談者)』から出来た言葉で、“酒場で心優しく接する人”という意味があるそうです。また、バーは“悩みを抱えた人が最後にたどり着く場所”と言われていています。そんなバーテンダーのいる店のカウンターには、色々な悩みを持った人達が集い、酒を飲み、ひとときの安らぎにひたり、またいつもの日常に帰っていきます。

カウンターの前では、バーテンダーの使う魔法でしょうか？酒の持つ魔力でしょうか？いつのまにか何の接点も無かった人と、まるで昔からの友達であったかのように話を交わすようになってしまいます。

現在、私は分析業務に携わっており、工作中は試験室と事務所の往復が大半を占めています。そのため、普段は異なる職業の人達との出会いや分析以外の情報を得る事は多くはありません。しかし、バーのカウンターではそれが逆転します。様々な職業の人達と出会い、分析以外の話題で盛り上がる。そのことは、自分にとって大きなプラスになっています。自分の決して経験することの無い話、その中で新しい発見をすることが数多くあるのです。いつも私はこんな風に考えています。「人生が60年だったとして、もし誰とも話をしなかったとすると、60年分の人生しか経験できない。そこで、別の人の経験を聞き、そこから得た教訓を自分のものにできるのであれば、60年分+ α の人生があるのではないか」と。だから私は新しい人や話題に出会うたびにワクワクします。それが良いことばかりではなくても、また自分の人生が少し奥の深いものになると信じているからです。

出会いを例えるならば、『カクテル』と言えるのではないのでしょうか。

『カクテル』は、広い意味で、2種類以上の素材を混ぜ合わせたミックス・ドリンクのことを言います。それぞれの素材が本来持つ味があるにもかかわらず、それらを混ぜ合わせることによって新しい味を作り出すのです。

私の好きなカクテルの一つに『Discovery』と言う名前のカクテルがあります。このカクテルは『Advocaat』という卵のリキュールとジンジャーエールを混ぜたもので、「卵+炭酸」という聞いただけでも不味そうな取り合せです。ところが、それぞれの味が絶妙に混ざり合って、想像以上に美味しいのです。まさしく『Discovery』と言う名前にふさわしいカクテルなのです。

カクテルは、素材の持つ味という“常識”にとらわれていては新たな良いものを作り出すことはできません。もちろん素材そのものを味わうことも大切ですが、それぞれの味を知りつつも、全く違ったものを混ぜ合わせることで素晴らしい作品が出来あがるのです。人には各々の個性や人生があるものの、それを互いに語り合うことによって、より味のある深い人生が楽しめるのではないのでしょうか。

そんな風に考えると、カウンターの中でバーテンダーがシェーカーを振る様子も、「あのシェーカーの中で、それぞれの個性がぶつかり合い、混ざり合って新しい個性へと変わっていったらいいだろう」と考えることができませんか？

と、ここまで書いてきましたが、実は、「酒は自分の人生をより味わい深いものにするんだ」と、酒を飲む口実を作っているだけなのでした。さて、今宵も飲みに行こうかな…

皆さんは酒を飲むのは好きですか？

草競馬を観戦して

財新潟県環境分析センター 関本隆一

私はこの秋に草競馬を観戦してきました。そこで皆様にご紹介したいと思います。

私が出かけた所は、茨城県のJRA美穂トレーニングセンター近くにある武田牧場です。ここ武田牧場は競争馬の育成をしている牧場で、1周ダート1200mの走路を有しています。普段はここでこれから競争馬になる馬、あるいは休養中の馬がトレーニングをつんでいるのです。そしてそのダート1200mがのコースが草競馬の舞台です。武田牧場からはもちろんのこと、近隣の牧場からも自慢の馬を連れてたくさんの人が集ま

ります。全部で7レースあり、各レースの1・2着馬が最後のレース（G1）武田記念に出走します。

その他にイベントとして、乗馬コーナーやビンゴゲーム、食べ物の屋台コーナー等盛りだくさんでした。そこで私は初めて乗馬に挑戦してみました。馬の背中まで高さがあり、乗ろうと思っても片方の足が背中まで届かず、何回か落ちそうになりましたが、牧場の方に手伝ってもらって乗れるようになりました。初めは馬の背中からの視界の高さと、バランスのとりずらさにおののくだけでしたが、そのうち2～3回と乗るうちに馬の高さにも慣れ、うまくバランスもとれるようになり、乗馬に対して「おもしろい」と実感し、大変興味をもつようになりました。

今回草競馬を体験して感じたことは、馬と人間の距離が近いことです。例えば、JRAの草競馬だとパドックにしろ本馬場入場にしても馬達と私達との距離がありますが、武田牧場に行けばすぐ目の前を馬が歩いて、そして走っていきます。その迫力は草競馬ならでは、JRAの草競馬ではあじわえないことでしょう。

草競馬へ参加するは、1000円の入場料を払うと勝馬投票引換券と出馬表がもらえます。そしてパドックと出馬表を参考にして勝馬を投票します。レースの実況はプロのアナウンサーなので迫力満点です。景品は地元産の農産物です。私は見事の中し大根や椎茸をもらいましたが、電車で持ち帰るわけにもいかず、友人にあげました。彼は自宅でおいしい夕食をとったのではないかと考えています。

以上、私の体験談でしたが、皆様も武田牧場へ出かけてみてはいかがでしょうか。きっと楽しい1日となると思います。おすすめですよ！

老兵の独り言

新潟県環境衛生中央研究所 外山 憲 幸

化学分析はやはりむずかしい！

これが小生の偽らざる実感である。50を過ぎて何を今さらとおしかりを受けそうであるが、どうしようもない事実であるから仕方がない。最近の分析機器は日進月歩に進歩し、今まで不可能であった超微量の元素や化学物質の検出が可能になった。

私のような老兵はとてもついて行けず、中堅若手諸君にお任せするほかないのが実態である。しかしひがみ根性で言う訳ではないが、それらの分析機器にかけるまでのいわゆる前処理にもっと神経を使い、知識を深める必要があるように思えてならない。「化学分析は前処理に始まって前処理に終る」との格言もあります。前処理とは何が含まれているかわからない未知試料から目的成分を分離抽出する操作です。この前処理操作が正しく行われて初めて正しい答が得られると言っても過言ではないでしょう。

昨年度行われた精度管理部会のクロスチェックの結果が如実にそれを物語っていないでしょうか。最新の原子吸光やICP、ICP-MS等は確かに高感度で、種々の補正機能があったり、多元素同時分析、オートサンプラーなど我々分析技術者の手間を省き、省力化に多くの貢献をしてくれています。

しかしこれらの機器は導入される適正に処理された最終試料に対して正しい数値を与えてくれますが、初めの試料の正しい濃度を保証してくれるものではありません。

いくらこれらの分析機器の操作に習熟していても、それはオペレーターにすぎません。我々に求められているのは依頼された試料中の成分の正しい濃度であり、そのためにはサンプリングから最終の濃度算出まで全工程が正しく行われて達成されるものです。

今一度化学の基本に立ち返り、自己を見つめ直してはどうでしょうか。何やらお説教めいた話になってしまいましたが、私の大先輩の言葉をもって終りとさせていただきます。

「分析機器が進歩すればする程、分析屋はばかになってしまう。」

この言葉を皆さんどう受けとめますか？

新潟県民間環境検査機関協議会会員名簿

●正 会 員

(アイウエオ順)

会 員 名	住 所	電 話 番 号
(株) 県 央 研 究 所	〒955-0805 三条市吉田1411の甲	0256-34-7072
県都食品環境分析センター	〒950-0022 新潟市幸栄1丁目7番12号	025-270-8890
コープエンジニアリング(株)新潟分析センター	〒950-0881 新潟市榎町3番地	025-273-8176
(財)上越環境科学センター	〒942-0063 上越市下門前1666番地	0255-43-7664
東北緑化環境保全(株)東新潟支社	〒957-0101 北蒲原郡聖籠町東港1丁目1-155	025-256-2506
(財)新潟県環境衛生研究所	〒959-0291 西蒲原郡吉田町東栄町8番13号	0256-93-4509
(株)新潟県環境衛生中央研究所	〒940-2127 長岡市新産2丁目12番地7	0258-46-7151
(財)新潟県環境分析センター	〒950-1144 新潟市祖父興野53番地1	025-284-6500
(財)新潟県保健衛生センター	〒951-8131 新潟市白山浦2丁目180番地5	025-267-8191
(財)二市北蒲原郡総合健康開発センター	〒957-0054 新発田市本町4丁目16番83号	0254-23-8352
(財)日本気象協会新潟支店	〒950-0962 新潟市出来島1丁目11-26	025-281-5711
ミヤマ(株)燕工場分析センター	〒959-1276 燕市大字小池3663番地1	0256-63-6751

●賛助会員

(アイウエオ順)

会 員 名	住 所	電 話 番 号
池田理化工業(株)新潟支店	〒950-0992 新潟市上所上3丁目5-10	025-285-9277
鐘通化学薬品(株)	〒951-8141 新潟市関新1丁目7-22	025-231-7121
島津サイエンス(株)新潟支店	〒950-0926 新潟市高志1丁目3-14 アクシス1-102	025-286-7191
(株)タケシヨー	〒950-0965 新潟市新光町23	025-283-6231
寺井科学器械(株)	〒941-8116 新潟市東中通1番町186-1	025-229-1198
(株)新潟コンゴ	〒950-0862 新潟市竹尾卸新町752-1	025-279-2031
(株)バイタルネット	〒950-2023 新潟市小新字大通3799番地1	025-234-1111
北陸工機(株)	〒942-0001 上越市中央3丁目14-34	0255-43-2434
和光純薬工業(株)大宮出張所	〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町4丁目150-1 金源ビル	048-641-1271

編集ノート

新世紀スタートの年もあっという間に過ぎ去ろうとしています。今年もいろいろな出来事がありました。国民の圧倒的な支持の基に小泉内閣が誕生しましたが、長引く経済の停滞、進まない行財政改革等、日本には取り組まなければならない問題が山積しています。

更に世界中を震撼させた同時多発テロ事件等、暗いニュースが目立ちますが、イチローの大活躍や、皇太子ご夫妻に内親王様ご誕生のニュース等は日本国中に興奮と喜びを与えました。そして来年6月には日韓両国でいよいよサッカーワールドカップの開催です。我が新潟にも世界の注目が集まります。ピクスイが多くの人の歓声と熱気に沸き返ることでしょう。サッカーファンならずとも待ち遠しい思いです。

一方、私たち検査機関を取り巻く環境にも大きな変化が起つつあります。規制緩和による域外検査機関との競争にますます

す拍車がかかり、また計量法の改正に伴い計量証明事業所の今後の事業展開のあり方にも大きな影響を与えかねません。これからは、社会ニーズの急激な変化に対し、検査機関がいかに柔軟に対応できるかが真に問われるのではないのでしょうか。別の見方をすれば、ピンチをチャンスとする絶好の機会と言えるかもしれません。

年末の忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様には大変ありがとうございました。

編集委員 精度管理部会 小林
 計量証明部会 横田
 水道・食品部会 松浦
 浄化槽部会 外山
 事務局 三輪